

プログラム詳細 パネルディスカッション 15:30~17:30

パネリスト紹介

中尾 浩治 (なかお こうじ) 日本医療機器産業連合会 会長
 ショートプレゼンテーション 「健康長寿社会とは」
 広島県尾道市出身 1970年に慶應義塾大学法学部政治学科 卒業
 1970年にテルモ株式会社入社。約11年間欧米で勤務後、1995年取締役就任。2010年代表取締役会長に就任し現在に至る。
 2013年より(一社)日本医療機器産業連合会会長(現在)
 2013年4月内閣官房健康医療戦略室参与(現在)

岸本 譲太 (きしもと じょうた) ベネッセスタイルケア 常務執行役員 サービス基盤本部長
 ショートプレゼンテーション 「入居介護施設を中心としたトータルシニアリビング」
 障害者団体職員を経て、1997年に株式会社ベネッセコーポレーション入社。1999年にシニア介護事業に異動。介護付有料老人ホーム事業の立ち上げに携わる。2006年には、入居介護施設事業のサービス基準策定を担当。現在、人材育成、食事サービス、医療連携の基盤部門に従事。社会福祉士。

伊藤 久美 (いとう くみ) GEヘルスケア・ジャパン マーケティング本部 本部長
 ショートプレゼンテーション 「GEヘルスケアが目指す高齢化社会を幸せにするイノベーション」
 ソニー株式会社を経て日本アイ・ピー・エム株式会社入社。新規事業やマーケティングなどを中心とするイノベーション・マネジメント・コンサルティング部門パートナーとして日本および海外の企業のコンサルティングを実施。米国本社の経営戦略部門、ソフトウェア事業部門、ビジネス開発部門などを歴任し、2014年1月より現職。企業、大学などに対してヘルスケア、イノベーション戦略、グローバル人材、ダイバーシティ、キャリアなどをテーマとした講演多数。著作に「ものコトづくり」(共著 日経BP社)「カリスマが消えた夏ー成長戦略を導く7つのイノベーションシート」(共著 日経BP社)がある。

木下 輝彦 (きのした てるひこ) 日本総合研究所 ヘルスケアイノベーショングループ ディレクター
 ショートプレゼンテーション 「予防事業のマーケティングコンセプト」
 1988年株式会社日本総合研究所入社。2002年より流通科学大学教授などを歴任し、2007年復職。現在は社会産業デザイン事業部プリンシパル兼ディレクター(ヘルスケア・イノベーショングループ担当)として、主に製薬、医療機器産業に対する事業戦略立案、マーケティング戦略立案、ヘルスケア関連政策提言に携わっている。「次世代の国作り」という旗印の下、中国、ASEANを中心とする日本ヘルスケア企業の新規国進出を支援。グロービス経営大学院客員教授も務める。神戸大学大学院博士課程前期課程修了。

宮城島 好史 (みやぎしま よしふみ) 静岡県健康福祉部 部長
 ショートプレゼンテーション 「健康寿命日本一に向けた“ふじのくに”の挑戦」
 1979年に静岡県入庁。児童相談所でのケースワークを経験後、1998年より介護保険制度の立上げ・運営を担当。2009年より長寿政策局長として高齢者福祉行政の推進に従事。この間、介護中であることを表示する全国初の「介護マーク」を世に出すなど、介護環境の改善に尽力。地域や企業の健康状態をデータや数字で示し、マップやグラフにより「見える化」する取組を推進し、県民の健康寿命の延伸に寄与。2013年より現職。2014年12月より厚生労働省厚生科学審議会臨時委員。

鄭 雄一 (てい ゆういち) 東京大学COI拠点 副機構長
 ショートプレゼンテーション 「東京大学が目指すオープンイノベーション」
 1989年に東京大学医学部を卒業後、1997年に医学博士号取得。東大病院にて内科研修医、米国マサチューセッツ総合病院フェロー、ハーバード大学医学部助教授などを経て、2005年より東京大学疾患生命科学センター臨床工学部助教授。2007年より同学工学系研究科バイオエンジニアリング専攻教授と工学系研究科を兼任し、骨格系の生物学、バイオマテリアル工学の研究と、これらを融合した組織再建用インプラントデバイスの開発に従事。

モデレーター

野尻 知里 (のじり ちさと) 東京大学COI拠点 副機構長
 東京大学大学院工学系研究科バイオエンジニアリング専攻 上席研究員 兼 テルモ株式会社 非常勤理事
 1978年京都大学医学部卒業、1986年医学博士号取得。日本胸部外科学会認定医・指導医、日本外科学会認定医。京都大学・小倉記念病院にて胸部外科・心臓血管外科研修医、東京女子医科大学附属日本心臓血管研究所循環器外科、米国ユタ大学留学(人工心臓・生体材料研究)を経て、1991年テルモ株式会社入社。2003年米国テルモハート社取締役社長兼CEOとして人工心臓の事業化を主導。2009年テルモ株式会社上席執行役員兼CMO、2012年理事。2015年より現職。
 2007年日経イノベータ大賞、2008年日経ウーマン・オブ・ザ・イヤー大賞、日本人工臓器学会技術賞。



東京大学 COI 拠点事務局
 TEL: 03-5841-0892 FAX: 03-5841-7798
 E-mail: coi-jimu@bioeng.t.u-tokyo.ac.jp
 URL: http://park.itc.u-tokyo.ac.jp/slcas-coi/index.html

自分で守る健康社会



東京大学 「若者と共存共栄する持続可能な健康長寿社会を目指す」COI 拠点 ~Sustainable Life Care, Ageless Society~

日時 2015年3月12日(木) 13時~17時30分 シンポジウム
 17時30分~19時 懇談会
 10時~19時 ポスター展示

会場 伊藤謝恩ホール (東京大学 本郷キャンパス内)

プログラム

ご挨拶

13:00-13:05 松本 洋一郎 東京大学 理事・副学長
 13:05-13:10 土屋 定之 文部科学省 文部科学審議官

基調講演

13:10-13:30 近藤 達也 医薬品医療機器総合機構(PMDA) 理事長
 13:30-13:50 許 俊鋭 東京都健康長寿医療センター 副院長
 13:50-14:10 合田 博文 富士通 未来医療開発センター センター長

COI 研究進捗報告

14:15-14:30 全体説明 池浦 富久 東京大学COI拠点 機構長
 14:30-14:45 ユビキタス予防・診断・治療システム 佐久間 一郎 東京大学大学院工学系研究科 教授
 14:45-15:00 創薬プロセスイノベーション 中村 栄一 東京大学大学院理学系研究科 教授
 15:00-15:15 健康医療 ICT オールジャパン標準化 大江 和彦 東京大学大学院医学系研究科 教授

15:15-15:30 休憩

パネルディスカッション テーマ「~健康長寿社会を目指して~」

15:30-15:40 中尾 浩治 日本医療機器産業連合会 会長
 15:40-15:50 岸本 譲太 ベネッセスタイルケア 常務執行役員 サービス基盤本部長
 15:50-16:00 伊藤 久美 GEヘルスケア・ジャパン マーケティング本部 本部長
 16:00-16:10 木下 輝彦 日本総合研究所 ヘルスケアイノベーショングループ ディレクター
 16:10-16:20 宮城島 好史 静岡県健康福祉部 部長
 16:20-16:30 鄭 雄一 東京大学COI拠点 副機構長
 モデレーター
 16:30-17:30 野尻 知里 東京大学COI拠点 副機構長



科学技術振興機構 センター・オブ・イノベーション(COI)プログラム
主催 国立大学法人 東京大学 COI 拠点 **後援** 独立行政法人 科学技術振興機構

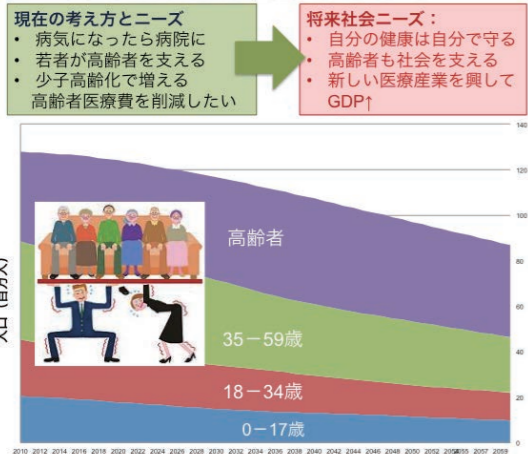
自分で守る健康社会



松本 洋一郎 (まつもと よういちろう)
 東京大学 理事・副学長
 1977年に東京大学にて博士(工学)取得後、同大学工学部講師に着任。1978年から同学部助教授、1992年から同学部教授(現在は組織変更により大学院工学系研究科教授)。2004年からは大学院工学系研究科副研究科長、2006年からは同研究科研究科長、2008年からは東京大学総長特任補佐(副学長)を務め、2009年より現職。
 専門分野は流体力学、計算力学、分子動力学、希薄気体力学、

マイクロ流体力学、気泡力学、混相流、キャピテーション、流体力学の医療応用、知の構造化など。国内外の学会で幅広く活動し、日本流体学会会長なども務める。現在は日本機械学会会長。その他、日本学術会議連携会員、米国機械学会フェロー(終身会員)など。日本機械学会賞論文賞(1992年、1998年、2007年)、米国機械学会 Calvin W. Rice Award (2005年)、他、受賞歴・表彰歴も数多い。

自分の健康は自分で守る



「自分で守る健康社会」

少子高齢化が世界に先駆けて急速に進む日本では、「自分の健康は自分で守る、高齢者も社会を支える、新健康医療産業創出により国民総所得を増大する」という「自分で守る健康社会」への構造転換が急務である。「自分で守る健康社会」の実現には、入院・通院を劇的に削減する革新的予防・診断・治療システムの開発や、「家庭で健康に」過ごすための、科学的エビデンスに基づいた健康・医療指導サービス等を提供する新たなビジネスモデルの創出が必須である。本COI拠点では、アンダーワルーフで産官学民の全てのステークホルダーが研究開発初期から対等に参加するオープンイノベーションプラットフォームの形成を促進することで、研究開発から社会実装までの時間・コストの大幅な削減を目指す。また、現有的参画企業に止まらない異業種間および他のCOI拠点との連携を活発化するための仕掛けとして「健康長寿ループの会」を立案し、本COI拠点にしか出来ないシックケアからヘルスケアへのシームレスな「繋ぎ」を実現するモデルを確立する。この東大COIモデルを全国に広げ、様々な規制改革への挑戦を行いながら、研究開発成果の社会実装を加速化する。

●●実現の鍵となる研究開発テーマ●●

ユビキタス予防・診断・治療システム (診断治療一体型小型デバイス)
 救急現場、診療所、さらには家庭で安全に使用できる放射線フリーの超音波技術に着目し、予防・診断・治療機器や健康機器の開発と社会実装を行うことで、患者負担の軽減、QOLの向上を図るとともに、入院や通院期間を半減させる。超音波技術を中心に、画像誘導技術による手術精度向上、マイクロ流体技術によるバイオマーカー高感度検出などをフル活用して、「いつでも、どこでも、だれでも」専門病院レベルの予防・診断・治療を受けることができる医療システムを構築する。

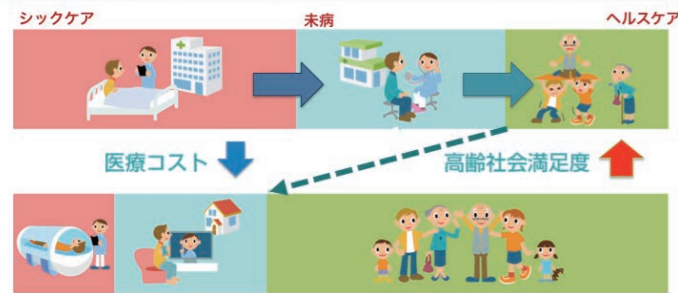
健康医療 ICT オールジャパン標準化 (健康モニターと健康医療データベース)
 医療機関の診療データを全国規模での標準化を推進し、臨床されたプラットフォームを確立する。医療機関外での健康診断や人間ドックデータ、在宅での各種測定データ、調剤記録、服薬情報、生活情報などのパーソナルデータを統合して、医療・健康データから個人の健康・病状変化の予測とリアルタイム介入ができるシステムを構築する。健康医療 ICT のオールジャパン標準化は新健康医療産業創出に必須のプラットフォームであり、個別のアプリケーションはこのような標準プラットフォームの上に構築することで、開発の効率化とコスト削減が可能となる。家庭で健康状態を計測する健康モニターを開発し、そのデータを健康医療データベースに取込み、いつでも、どこでも医師の診断や専門家の健康増進アドバイスを受けられるようにする。

創業プロセスイノベーション (安くて効果の高い薬や原薬の開発)
 低分子医薬品は出尽くしつつあるものの、生活の基盤となる「基盤医薬」のうち100成分程度は将来にわたり必要になり、外来と在宅で用いられ患者の日常的なQOLを向上させる医薬品となると予測されている。しかし、本邦は原薬のほとんどを輸入に頼っており、その品質問題も指摘されている中で、原薬から製剤までの一貫生産は重要な課題である。本COI拠点では、医薬品有効成分の結晶形成の新たなサイエンスと革新的合成プロセスを駆使して基盤医薬品(ジェネリック医薬品)の製造プロセスを根本的に見直し、安価で高品質な原薬の国内生産を達成し、政府が目標とする60%以上の普及に貢献する。これらの成果は、個別化医療の普及に伴い少量多品種化が進む新薬の製造に対しても、高速・高感度薬剤候補物質スクリーニングプロセス等と合わせて、イノベーションを興すプラットフォームとしての適用可能性を検討していく。

オープンイノベーションセンターの設立
 東大病院敷地内に新たに建設する模擬手術室を中心に、産官学民、全てのステークホルダーが対等に参加できる、オープンイノベーションプラットフォームを確立し、自立的な運営を目指す。

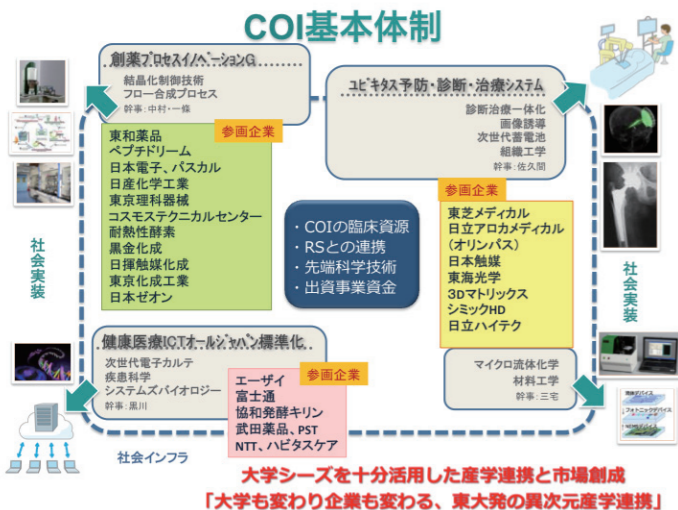
東大COI拠点の狙い

“入院を外来に” “外来を家庭に” “家庭で健康に”



高齢社会満足度↑/医療コスト↓=健康幸福指数↑

“生涯ウェルビーイング”の実現



プログラム詳細 来賓挨拶・基調講演・COI研究進捗報告 13:05~15:15

来賓挨拶



土屋 定之 (つちや さだゆき)
 文部科学省 文部科学審議官
 昭和54年に北海道大学大学院環境科学研究科修士課程を修了後、科学技術庁に入庁。平成9年原子力局核燃料課長。平成13年文部科学省の設置に伴い文部科学省科学技術・学術政策局基盤政策課長。平成19年大臣官房審議官(高等教育局担当)。その後、大臣官房総括審議官、大臣官房長、科学技術・学術政策局長を経て、平成26年より文部科学審議官。

基調講演「健康長寿社会の実現に向けて～東大COI拠点への強い期待～」



近藤 達也 (こんどう たつや)
 医薬品医療機器総合機構(PMDA) 理事長
 昭和43年東京大学医学部医学科卒業。同大学脳神経外科教室入局、マックス・プランク研究所(脳研究所/西ドイツ)留学、国立国際医療センター手術部長などを経て、平成15年同センター病院長に就任。平成20年4月よりPMDA理事長に就任し、現在に至る。なお、平成25年より(一社)Medical Excellence JAPAN 副理事長、内閣官房健康・医療戦略室健康・医療戦略室参与。

基調講演「重症心不全治療の進歩と将来展望」



許 俊鋭 (きょ しゅんえい)
 東京都健康長寿医療センター 副院長
 昭和49年東京大学医学部卒業後、三井記念病院外科勤務、昭和55年ハーバード大学研究員(MGH)、昭和57年埼玉医大第一外科講師、平成5年同助教授、平成9年埼玉医大第一外科教授、平成19年同名誉教授、平成20年東京大学「重症心不全治療開発」講座特任教授、平成23年東京都健康長寿医療センター副院長(東京大学特任教授兼任)、平成25年東京大学特任研究員兼任。
 心臓血管外科名誉専門医、循環器専門医、超音波専門医(指導医)、日本外科学会指導医、日本胸部外科学会指導医、日本移植学会移植認定医、植込型補助人工心臓実施医。

基調講演「健康・医療分野における新たな取り組み」



合田 博文 (ごうだ ひろみ)
 富士通 未来医療開発センター センター長
 1977年富士通株式会社に入社。システムエンジニアとして医療情報システム開発、医療業務パッケージ「HOPE」シリーズの商品企画・開発・全国展開・販売に従事。2003年医療システム事業部長、2009年ヘルスケアソリューション本部長を経て、2010年執行役員に就任し、公共地域システム部門を担当。2013年に未来医療開発センターを立上げ、センター長を兼務。2014年より特命顧問兼未来医療開発センター長として現在に至る。

研究進捗報告 全体説明



池浦 富久 (いけうら とみひさ)
 東京大学 COI 拠点 機構長
 三菱化学株式会社 元顧問
 1976年に三菱化成工業株式会社に入社し、技術部長、イノベーションセンターセンター長、執行役員として生産技術全般、研究開発、新規事業開発を推進し、経営戦略部門・常務執行役員を経て、2012年より顧問に就任。この間、産業構造審議会産業技術分科会開発小委員会委員(2011)、日本化学会副会長(2011)、2013年より東京大学 COI 拠点 機構長。

研究進捗報告 ユビキタス予防・診断・治療システム



佐久間 一郎 (さくま いちろう)
 東京大学大学院工学系研究科 教授
 昭和60年3月東京大学大学院工学系研究科博士課程中退、平成元年3月工学博士(東京大学)。平成10年4月東京大学大学院工学系研究科助教授、平成11年4月同大学院新領域創成科学研究科助教授、平成13年10月教授、平成18年4月同大学院工学系研究科教授、平成24年4月同大学院工学系研究科附属医療福祉工学開発評価研究センターセンター長・教授、平成26年4月同大学院工学系研究科副研究科長・国際工学教育推進機構長、現在に至る。
 専門研究分野: 医用精密工学、コンピュータ外科 所属学会名: 日本ロボット学会、日本生体医工学会、日本コンピュータ外科学会、ライフサポート学会、精密工学会、日本人工臓器学会等の会員。

研究進捗報告 創業プロセスイノベーション



中村 栄一 (なかむら えいいち)
 東京大学大学院理学系研究科教授 (特別)
 1978年東京工業大学理工学研究科博士課程修了、理学博士。コロンビア大学博士研究員、東京工業大学助手、助教授を経て、1993年教授、1995年東京大学大学院理学系研究科教授。
 日本 IBM 科学賞、日本化学会賞、フンボルト研究賞、紫綬褒章、アメリカ化学会賞、藤原賞、英国王立化学会創立百周年賞など受賞。米国科学振興協会フェロー、英国王立化学会フェロー、米国芸術科学アカデミー外国人名誉会員、イスラエル化学会名誉会員、中国科学院インシュタイン教授。専門は有機合成化学、物理有機化学。新しい合成反応及び機能性物質設計・合成、化学反応機構研究、活性炭素クラスターの科学などで先駆的業績を挙げ、有機薄膜太陽電池の実用化に道を拓いた。2007年には、原子分解能電子顕微鏡を有機化学研究に持ち込むことで、有機分子1分子1分子の動きを観察することに初めて成功した。

研究進捗報告 健康医療 ICT オールジャパン標準化



大江 和彦 (おおえ かずひこ)
 東京大学大学院医学系研究科 教授
 医療情報経済学分野、医療情報システム学分野教授、東大病院企画情報運営部長を兼務。
 昭和59年(1984年)東京大学医学部医学科卒業。東大病院外科系研修医などを経て、東京大学大学院で医療情報学を専攻。平成元年(1989年)東大病院中央医療情報部助手。同講師、助教授を経て平成9年(1997年)より、現職。この間、医学部附属病院副院長、医学図書館長などを兼務。
 専門は、医学知識処理と医療情報の標準化、医療情報システムの研究。